

会 議 録

会議の名称	行田市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会 評価・検証部会	
開催日時	令和3年12月10日(金) 開会：午後3時00分・閉会：午後5時10分	
開催場所	行田市総合福祉会館 2階第3研修室	
出席者(委員)氏名	委員長：川島 治 溝上 俊亮、藤井 尚子、小峯 春男、羽鳥 嗣郎、小暮 福三、 渡辺 国雄	
欠席者(委員)氏名	なし	
事務局	柴崎高齢者福祉課長、横山健康福祉部副参事、大澤主幹、春日主幹、増田主査、代主査	
会議内容	(1)第8期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における重点事業の進捗等に係る評価・検証について (2)その他	
会議資料	(資料名・概要等) ・重点目標にかかる各事業の概要 ・行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に係る実施内容及び評価シート ・庁内の関係	
その他必要事項	傍聴者1名	
会議録の確定	確定年月日	主宰者記名
	令和4年4月22日	川島治

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局 川島委員長	<p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第8期計画では、評価や検証を皆さんと一緒にしっかりと行っていきたいと思っている。 ・私が用意した資料を確認していただきたい。本計画の策定委員会において、こちらが投げかけたことや結論が出ていなかったこと、市から検討するなどといった発言があった部分等について、計画策定後、半年以上経過して現段階での市の考えを確認したいと考えている。 ・評価の前提として、所管課である高齢者福祉課の自己評価だけでなく、地域共生社会の実現に向け、部内各課、介護事業所、関係団体、関係協議会に意見を聴いたうえで施策を進めていく必要がある。 ・第8期計画において設定した基本目標について、何を以って達成されたのかを判断するのが、本委員会の一つの役割である。 ・第9期計画の策定の際には、市民公聴会等の開催が必要と考えている。また、特養を新設することによる介護保険料への影響を踏まえた上で、施設新設について市民に考えていただき、選択してもらう必要もある。 ・障害や子育ての各種協議会等のほか、地域包括支援センター運営協議会や地域密着型サービス運営委員会との合同協議も必要と考えているので、次回に向けた体制作りをお願いしたい。 ・別紙Aに関して、ケアプラン作成の有料化が検討されていたが、今回は流れてしまった。ケアプランが有料化されると、利用者は自らが希望するサービスを入れて欲しいと要望するケースが増えると考えられる。そこで、ケアプラン点検ソフトを導入することで、限度額に対する消化率と状態の改善状況をグラフ化し、ケアマネジャーが作成するケアプランが適切で質の高いものであるか、保険者がしっかり把握し、経営の意図を伝えていくことが重要である。 ・別紙Bに関し、社協が主体となって各種ボランティアを統合し、ボランティアを何の目的で、何人くらい必要なのか、どのように活用していくのかをしっかりと考えていく必要がある。 ・それでは、議事に入らせていただく。本日の会議は公開とする。 <p>3 議事</p>
事務局 川島委員長 溝上委員	<p><資料「重点目標にかかる各事業の概要」の説明></p> <p><資料「行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に係る実施内容及び評価シート」の説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、ご質問等があればお願いしたい。 ・今回出された意見に基づき計画を修正するなどの対応はあるのか。 ・この評価シートはいつ現在のものか。

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価シート下段の改善A、令和4年度活動方針について、必要に応じて令和3年度の活動方針として追記できるのか。 ・ 評価を行うのは計画の重点項目だけなのか。 ・ 以上4点について、確認したい。 ・ 1点目、計画の途中修正はできないため、今回頂いた意見については、今後の事業実施や次回以降の評価の際に参考とさせていただきたいと考えている。 ・ 2点目、評価の時点は基本的に11月末としている。 ・ 3点目、令和4年度活動方針については、今後の活動の方向性を示したものであり、令和3年度の残り分を含め、ご意見があれば頂戴したい。
川島委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4点目、計画の項目が多岐にわたることから、計画策定時に、今後の評価・検証は重点項目を中心に進めていくこととなったため、今回の対応となったものである。 ・ これから計画を変更することはできないので、第9期計画に向けて活かしていくことになる。 ・ 第8期計画策定の中で議論になった部分や、市が検討するなどといった部分を確認していくので、重点項目の進捗だけを確認するわけではない。 ・ 評価シートについては、所管課だけが考えた所管課による評価であるため、外部から見た評価ではない。評価のたたき台くらいで考えてもらい、今後評価するために一つの例くらいに考えてもらえればよいのではないか。
川島委員長 溝上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ その他、質問等があるか。 ・ シートNo.1、通いの場の拡充について、今後もコロナの影響で事業が思うように進まないことも考えられるが、代替等を含めコロナ禍だからこそできることなどを検討しているのか。 ・ シートNo.2、ご近所型介護予防事業の推進について、これからは高齢者だけではなく、若者世代を含め全世代の協力が必要となるため、若者世代に対するアクションを起こしてもらいたい。 ・ 認知症ボランティア養成、活動推進について、認知症地域支援推進員の拡充についての実績値はどうなっているのか。 ・ 介護人材確保における高校への訪問による介護の魅力のPRに関して、誠和福祉高校だけでなく、子どもたちに福祉を根付かせるために福祉になじみのない普通の高校や中学校にも訪問するのが良いのではないか。 ・ マッチングに関して、当法人も専門学校と連携して高校への訪問を行っているが、専門学校と一緒にいくと良い印象があったと感じたため、市も事業所と一緒にいくのも良いのではないか。また、市も体験研修なども含め事業所と連携した取組を行うとよいのではないか。 ・ 介護就職デイ面接会について、当法人も参加したが、参加者も

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
<p>事務局</p> <p>川島委員長 藤井委員</p>	<p>多く実際に見学した方や内定に至った方もおり、効果的な事業であった。何か要因があるのか。是非継続して続けてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における通いの場の活動中止の代替について、例えば、楽々グラウンドゴルフ事業など、屋外で密にならずにできる活動もあるため、そのような選択肢を広げていく必要もあると考えている。 ・次に、ご近所型介護予防について、地域共生社会の実現を見据え、支え手受け手の関係性を越えた多世代交流は重要であると認識しているが、これは、どちらかということご近所型介護予防よりも通いの場の拡充の部分に当てはまると考えている。既存のボランティアサークルなどの対する支援などにより、通いの場の拡充を図っていききたい。 ・認知症地域支援推進員の人数については、5カ所の地域包括支援センターに7人、市に2人、計9人を配置している。 ・介護人材確保における誠和福祉高校以外への訪問については、検討していききたい。 ・介護就職デイについては、共催者であるハローワークから、介護関係の就職希望者以外に対しても、チラシを配るなどの取組が効果的であったと聞いている。 ・他に質問はあるか。 ・先程話があったグラウンドゴルフは対象が高齢者のみとなるので、多世代交流につながるものをアイデアとして募っても良いのではないか。 ・多世代交流に関しては、社会福祉協議会が行っている学習サロンや教室などの取組がヒントになるのではないか。例えば、学びの場に、リタイアしたシニアの方が関わるなども考えられるので、この部分を開拓していくと良いのではないか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流の場として通いの場の拡充の必要性は認識しているが、多世代交流に関して、楽々グラウンドゴルフ事業は、高齢者のみを対象としているわけではないため、今後、高齢者以外の方の参加が増えるよう工夫していききたい。 ・多世代交流については、既存の活動の場があることが周知されていない部分があるので、もっと周知を図っていききたい。
<p>川島委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場について、2020年末までに参加率が6%を超えなければ、交付金が減額されると聞いている。 ・通いの場は、高齢者だけを対象にするのではなく、子どもから高齢者までが集う「ごちゃまぜサロン」の開催のほか、例えば、商工会の青年部の方など地域のために汗をかきたいと考えている人も多いはずなので、高齢者福祉課だけでなく、庁内の連携によりそのような方に働きかけ、全世代型の取組を進めてもらいたい。

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防に関しては、給付の適正化を図り、介護保険財政を維持するために、通いの場の設置やご近所型介護予防など予防に力を入れていきたいという市の考えを市民に伝え、協力を求めるべきでないか。 ・認知症関係の人数について、徘徊模擬訓練を大勢を集めて1回行うだけでは意味がないので、地域包括支援センターの担当エリアや中学校区ごとに実施すべきでないか。 ・ボランティアの活動人数に関しても、どのような事業に何人の方を活用すべきかを考えてやってもらいたい。 ・人材確保についても、どのような人材がどのくらい必要かという事業所のニーズを把握したうえで、事業を実施すべきではないか。 ・通いの場に拡充については、福祉課、子ども未来課といった部内関係課はもちろん、庁内の他部署や関係団体と連携のうえ、スピード感を持って対応していきたいと考えている。
川島委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業が行き詰っていることと、ご近所型介護予防事業とでは何か関係があるのか。 ・具体的には、介護予防における総合事業のA型、B型が行き詰っている中、ボランティアの活用と併せてご近所型介護予防事業などにより介護予防を進めていくという意図はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業においては、主に65歳以上の全ての高齢者を対象とした一般介護予防事業を進めてきたが、一般介護事業の性質上、効果検証が難しいものが多かった。 ・国では、既に効果検証がされている100歳体操の普及を進めていることから、本市でも100歳体操（ご近所型介護予防事業）の普及に向け取り組んでいる。 ・総合事業のA、B、C型のサービスは、運動機能や認知機能が若干低下した方に対する提供サービスであり、総合事業のサービス提供により状態が改善した方が近所の集会所等まで歩いていけるようになったら、100歳体操（ご近所型介護予防事業）に参加するイメージである。
川島委員長 渡辺委員	<ul style="list-style-type: none"> ・その他、ご意見はあるか。 ・通いの場での週1回以上の活動について、グラウンドゴルフに限らず同じ活動を毎週行うのも難しいため、いろいろな種類の活動を行うことで、結果的に1週間のうち何らかの活動を行っているという形もあると思う。 ・先日、認知症サポーター養成講座を受講したが、過去の受講者にも声をかけて徘徊模擬訓練にボランティアとして協力してもらうなど活用を図るべきである。 ・徘徊模擬訓練は良い取組だと思うので、1回だけでなく複数回実施してもらいたい。 ・介護人材確保にかかる入門的研修は、3年前にも同様の研修を

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	<p>実施したと思うが、ボランティアをしたい気持ちがあっても実際に事業所へのアプローチの仕方がわからない人もいるので、マッチングの部分をよく考えてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽々グラウンドゴルフ事業について全く知らなかったのだが、どのような周知を行ったのか。 ・ 順番が前後するが、最後の質問の楽々グラウンドゴルフ事業の周知は、各公民館の他、シニアクラブやいきいきサロンの代表へのチラシ配布、市ホームページへの掲載を行ったところである。 ・ 人材確保の入門的研修におけるマッチングについて、現在、研修終了後に研修受講者の面談を希望する事業所の参加を募っているところである。
溝上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第8期計画について、自治会や地域住民にどのように伝わっているのか、また、自治会がどのように取り組んでいるのかを自治会連合会の羽鳥委員に伺いたい。
羽鳥委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会連合会では、現在災害対応を重点的に行っているが、高齢者を対象とした取組では、いきいきサロンでのラジオ体操やながちか体操、月1回程度の茶話会くらいになってしまう。 ・ 自治会連合会としては、これ以上の協力はなかなか難しいものがある。
溝上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケアシステム構築のためには、自治会や地域の力が欠かせない。市は自治会等に対しどのようなアプローチをしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援体制整備事業において地域への働きかけを行っているが、例えば、自治会における防災を起点とした取組から高齢者の支援につなげるアプローチも行っている。
藤井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラウンドゴルフの活動は週1回以上であれば通いの場として認定されるのか。現状グラウンドゴルフのサークルの活動の頻度はどのくらいか。
羽鳥委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多いところは毎日行っている。
藤井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ それであれば、現状でもグラウンドゴルフのサークルを週1回以上の通いの場として認定できるところもあるのではないか。 ・ また、公民館活動等の自主的な活動を市がバックアップして展開していければ、年間40カ所の設置はあつという間ではないか。もともとある活動に100歳体操やACPを結び付け、通いの場の充実を図り、健康寿命を延ばす方向性に持っていかれば良いのではないか。
川島委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今、行政に一番求められているのは、地域づくりである。地域の中に入って市民の方と話をするなどし、地域づくりをしていく企画力が問われている。 ・ 現状で地域にあるものをもうひと手間かけてサポートすることで、地域づくりを進めてほしい。いろいろな資源が地域にある

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
小暮委員	<p>ので是非働きかけを行ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私自身の様々な活動により得た福祉や健康に関する情報を地元北河原のいきいきサロンの参加者等に流すことで、地元の住民が健康でいられるよう努めているので、皆さんも是非今回の会議で得た情報を地元の方に伝えてほしい。
川島委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、重点項目についてのまとめに入りたい。 ・通いの場に関しては、ごちゃまぜや地域共生に関するコメントがあまりないので入れてほしい。また、シートにいつまでに何をやるという時間軸を入れてほしい。 ・事業の進捗について、中間報告という形で、市のホームページなどを活用し情報発信をしてほしい。 ・認知症ボランティアに関しては、徘徊模擬訓練の実施やボランティア養成後の活用に向けた時間軸を示してほしい。 ・認知症ボランティアや介護人材の確保について、どのような方が何人くらい必要なのかという意見を介護事業所に聞いてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の評価の際には事業のスケジュール感を示すようにしていきたい。 ・関係機関からの意見聴取を行い、頂いた意見を参考に今後の事業を行っていきたい。
川島委員長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、次に私が作成した資料に記載した事項について、市の考えを聞きたい。 ・評価の前提として所管課の自己評価を廃する件について、庁内及び関係機関からの意見聴取を行ってほしい。 ・第7期計画の基本目標が達成されたかどうかについて、市が作成した各種計画においても、基本目標自体の達成を判断する評価指標はない。従って、基本目標の達成については、数値目標を設定している個々の施策がどの程度達成されたかによって判断されるものであると考えている。 ・第8期計画の基本目標が達成されたかどうかについても、第7期計画と同様に判断せざるを得ないものと考えている。 ・事業の進捗に関する適切な評価の実施については、庁内各課及び関係団体からの意見聴取を行ってほしい。 ・在宅介護実態調査・日常生活圏域ニーズ調査以外の各事業所への調査（意見聴取）については、居宅介護支援事業所のケアマネに対してのアンケートを行ってほしいと考えている。 ・住宅改修については、利用者及びケアマネに対し制度の概要を説明するためのパンフレットを既に作成しているほか、ケアマネに向けた手引きを本年4月に改訂し、窓口で配布しているだけでなく市のホームページにも掲載している。 ・給付の適正化、ケアマネの質の向上については、地域ケア推進会議でのケアプランの点検を引き続き実施していきたい。

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
川島委員長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ケア会議については、今後、検証の部分をより強化し、モニタリングを行っていきたい。 ・住宅改修の手続きが他市に比較し煩雑との意見については、適正な保険給付のために必要な手続きであればやむを得ないものであるが、他市の手続きを参考にした上で対応を考えていきたい。 ・乳酸菌飲料の配布について、安否確認により亡くなられた方を発見したとのことだが、亡くならないような施策が必要との意見については、2年くらい前に本事業により死亡した方を発見したケースがあった。亡くなられたことは大変残念であり、このようなことがないよう努めていくが、本事業の目的が安否確認であることから、万一亡くなられた場合であっても、市としては早期の発見・対応が求められているものと考えている。 ・寝具の乾燥及び丸洗い事業については、利用者が減少しているため、関係課とも相談しながら対応を検討していききたい。 ・いきいき元気サポーターの利用者増の取組について、社会福祉協議会と一緒に考えていききたい。 ・有料・サ高住の状況把握について、以前、この話をいただいた際に医師会の考えを消防本部には伝えている。この取組は消防本部としては、救急搬送の適正化に関連するため、消防本部と一緒に検討していききたい。 ・介護予防総合事業のいわゆる相当サービスについて、9期以降はできるだけA型に移行できるように、事業所の意見を聞きながら進めていききたい。また、C型については、今年度もC型のサービス利用が増えるよう改善を行い実施している。 ・アンケートについては、基本的な質問項目を国が定めており、暮らしが大変苦しいなどの回答した場合の生活実態の詳細までの記載は求めているため、アンケートにおいて把握はできないものである。 ・見える化システムにデータを取り込んで分析や調査の実施を考えている件について、現在のシステムではデータの反映ができないため、今後システムの改修を考えていく。 ・一般介護予防評価について、サービス参加者のアンケートを今後とも進めていき、事業の改善に役立てていききたい。 ・ボランティアポイントの導入について、現在、調査研究中であるが、導入に向けた調整を行っていききたい。 ・第9期に向けて市民公聴会・説明会等などについては、今後第9期計画の策定の際に具体的なところを詰めていくことになると考えている。 ・その他、全体について何か質問はあるか。 <特に質問なし> ・<資料「本市の介護サービスの状況」についての説明>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
川島委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受給が少ないことは、7期、8期にわたって施設を作らず、在宅サービスを中心にしている方向性が少し見えているのかなと思う。 ・ 県内40市中、行田市の人口減少率が上から2番目という状況を考えると受給が少ないと思われるが、必要なサービスがないから給付が受けられないことと、介護予防がうまくいった結果、受給が少ないということでは、どちらが望ましい姿と市は考えているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給付が少ないのは介護予防の取組の効果が出ている部分があるのではないかと考えている。必要なサービスを充実させるようアンケート調査の結果を踏まえながら考えなければならないと思っている。
川島委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第のその他について、事務局から何かあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特にない。
川島委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最後に何かあるか。
藤井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行田市の特徴として、デイサービスの事業所が多い、そして通いの場が少ないということが際立っているようだが、通いの場を増やしても、そこまで行くことができない方もいるので、そのあたりの対応を考えれば介護予防も進むのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市では、事業所の空き車両を活用した移動支援についても検討を行っている。
羽鳥委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を見ると羽生市は通いの場が多いようだが、何か理由があるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 羽生市に確認したわけではないが、羽生市は社会福祉協議会の支部社協が充実しており、支部社協の活動により、地域資源を活用した通いの場の設置が進んでいるのではないかと考えている。
川島委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ やっていることは同じでも社協がしっかり施策に活かせるような取組を行っているのと通いの場の設置数が違ってくるのではないか。しっかりとした取組をお願いしたい。 ・ それでは、以上で本部会を終了とする。

